

[091_03] 法政研究表紙奥付

<https://hdl.handle.net/2324/7329595>

出版情報：法政研究. 91 (3), 2024-12-18. Hosei Gakkai (Institute for Law and Politics) Kyushu University

バージョン：

権利関係：



江口厚仁 教授 著作目録

著書

- 『圏外に立つ法/理論：法の領分を考える』（共編著） ナカニシヤ出版 2012年
『境界線上の法/主体：屈託のある正義へ』（共編著） ナカニシヤ出版 2018年

論文

- 「法システムの自己組織性」 (九大法学60号) 1990年
「法と社会の自己組織性：N. ルーマンのシステム理論を手がかりに」
(九州法学会会報) 1990年
「法システムの自律性について：ニクラス・ルーマンのシステム理論をてがかりに」
(法社会学44号) 1992年
「法的思考様式のアイデンティティをめぐって（一）」
(法政研究58巻4号) 1992年
「法・自己言及・オートポイエシス」 (法政研究59巻3・4号) 1993年
「法化社会における合意の社会的機能」『システムと共同性：新しい倫理の問題圏』
(佐藤康邦、中岡成文、中野敏男編) 昭和堂 1994年
「法システムと市場の論理：システム制御の問題を中心に」
(法哲学年報1994) 1995年
「法システムの境界と変動：多元性との共存にむけて」
(法社会学48号) 1996年
「法システムの境界と変動」『法社会学コロキウム 石村善助先生古稀記念論文集』
(宮澤節生、神長百合子編集代表) 日本評論社 1996年
「法と道徳は一致すべきか」『モラル・アポリア：道徳のディレンマ〔叢書倫理学の
フロンティア；1〕』（佐藤康邦、溝口宏平編） ナカニシヤ出版 1998年
「プロセスとしての地域づくり：地域開発から考える『九州・沖縄』の現在・未来」
『地域から問う・国家・社会・世界：「九州・沖縄」から何が見えるか』（石川捷治、
平井一臣編） ナカニシヤ出版 2000年
「法と暴力：われわれはいかにして暴力と折り合うか?〔シンポジウム 法と暴力

- 全体会『法と暴力』』 (法社会学54号) 2001年
「自己組織化する法」『法と社会へのアプローチ』(和田仁孝、太田勝造、阿部昌樹編)
日本評論社 2004年
「公共性論の現在：本分科会の企画趣旨について〔日本法社会学会九州研究支部シンポジウム「市民的公共性/公共圏のゆくえ」基調報告〕」
(法政研究74巻3号) 2007年
「迷いぬく倫理学：互いを認め合い、違いにこだわる」『リベラルアーツ講座 感性・
こころ：自分らしい自分をつくるもうひとつの知をひらく』(坂口光一編 九州大
学ユーザーサイエンス機構監修) 亜紀書房 2008年
「暴力・リスク・公共圏：国家の暴力／社会の暴力と折り合うための技法」『自由へ
の問い(3) 公共性：自由が自由を可能にする秩序』(阪口正二郎編)
岩波書店 2010年
「法化論：未完のプロジェクト」『圏外に立つ法／理論：法の領分を考える』(江口
厚仁・林田幸広・吉岡剛彦編) ナカニシヤ出版 2012年
「主体の行方、ワタシの在処：アイロニカルな主体に向けて」『境界線上の法／主体：
屈託のある正義へ』(江口厚仁・林田幸広・吉岡剛彦編)
ナカニシヤ出版 2018年
「社会制度としての法」
(法政研究86巻3号〔酒匂教授、五十川教授退職記念論文集〕) 2019年
「法システムのパラドクス」『作動する法／主体：パラドクスからの展開』(林田幸広、
土屋明広、小佐井良太、宇都義和編) ナカニシヤ出版 2021年
「現代リスク社会を観察する：社会構築主義的リスク理論のおさらい」『法の理念と
現実 酒匂一郎先生古稀記念論文集』(重松博之/高橋洋城/中山竜一/吉岡剛彦編)
成文堂 2024年

新聞・雑誌・コラム

- 「大学：不思議の国のレジャーランド」『自分からの政治学』
(石川捷治・平井一臣編) 法律文化社 1996年
「シネマ・法学入門(4) 正義の行方, ワタシの在処:『TV版新世紀エヴァンゲリ

オン』 (法学教室202号) 1997年
「ニュースの本棚—法化社会のゆくえ」 (朝日新聞 2012年9月2日)

翻訳

『社会の法 1 [叢書・ユニベルシタス; 767]』(ニクラス・ルーマン[著]、馬場靖雄、上村隆広、江口厚仁 [訳]) 法政大学出版局 2003年

『社会の法 2 [叢書・ユニベルシタス; 768]』(ニクラス・ルーマン[著]、馬場靖雄、上村隆広、江口厚仁 [訳]) 法政大学出版局 2003年

※レッシング翻訳賞2004 (Lessing-Übersetzerpreis 2004) 2005年1月ドイツ連邦共和国 ニクラス・ルーマン『社会の法』(Niklas Luhmann, "Das Recht der Gesellschaft") (馬場・上村・江口共訳・法政大学出版局・2003年) 翻訳に対して

学会・シンポジウム報告等

「法と社会の自己組織性: N・ルーマンのシステム理論を手がかりに」
九州法学会秋季(第82回)大会: 個別報告(大分大学) 1990年

「法と社会の自律性について」
日本法学会1991年学術大会: 個別報告(神奈川大学) 1991年

「マイクロ・マクロ・リンクの問題をめぐって」
西日本社会学会1991年春季大会: 全体シンポジウムのコメンテーター
(宮崎大学) 1991年

「法・自己言及・オートポイエシス」
第13回思想史研究会: 個別報告(福岡市) 1992年

「ルールと合意の社会的機能をめぐって」(シンポジウム: 合意について—その法的社会的射程)

九州法学会秋季(第88回)大会: 全体シンポジウム報告(熊本大学) 1993年

「法システムと市場の論理: システム制御の問題を中心に」
1994年度日本法哲学学会学術大会: 全体シンポジウム報告(熊本大学) 1994年

「法システムの境界と変動」
日本法学会1995年学術大会: 個別報告(日本大学) 1995年

「社会学的批判：法理論にとっての認知可能性」

西日本社会学会1996年春季大会：全体シンポジウムのコメンテーター
(久留米大学) 1996年

「法の正当化／法における正当化？」

北大法理論研究会：基調報告（北海道大学） 1997年

「法と暴力：われわれはいかにして暴力と折り合うか」

日本法社会学会 2000年度学術大会：全体シンポジウム報告
(大阪市立大学) 2000年

「市民的公共性/公共圏のゆくえ」

九州法学会第111回大会ミニシンポジウム報告（佐賀大学） 2006年

その他

「法学部における就学支援・修学相談の取り組み」

(学生相談（九州大学学生生活・修学相談室紀要）第9号) 2008年

「法学部における低年次教育充実に向けての取り組み」

(大学教育（九州大学高等教育総合開発研究センター）第15号) 2010年